

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
 大学院生研究
 2010年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院経済学			研究科	経済学	専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名			
	経済学研究科博士課程後期課程 4年		中村 慎一郎 印			
指導教員	所属・職名		氏名			
	経済学部教授		老川 慶喜 印			
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ 社会		個人・共同の別	個人 ・ 共同 名		
研究課題名	昭和戦前期における卸売商の事業展開					
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名			
	経済学研究科博士課程後期課程 4年		中村 慎一郎			
研究期間	2010		年度			
研究経費	200		千円			

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

第一に、従来先行研究史上、空白となっていた卸売商の経営、すなわち事業展開について明らかにすることである。当時の食品関連を取り扱う業界では、製造業者及び卸売商がアメリカの流通構造の変化に注目していた。その変化とは、製造業が大会社化し、小売商が百貨店やチェーンストア形態へと進展するものであった。そのため、これまで中間流通を担っていた卸売商の危機感は強かった。当時この想定された危機に対する食品卸売商の企業行動について検討していきたい。

第二に、卸売商の商品流通上の川上及び川下への関与について検討する。川下に関しては、昨年度の調査により小売商支援策を実施していたことが判明している。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)

[小売商支援政策] [商品流通] [商業政策]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、大きく二点を研究課題とした。第一の研究課題として、暖簾分けから創業した商人組織から近代的な株式会社組織へと変貌した組織改革の分析を挙げている。

当時の食品関連を取り扱う業界では、製造業者及び卸売商がアメリカの流通構造の変化に注目していたと推測していた。アメリカの流通構造の変化とは、製造業が大会社化し、小売商が百貨店やチェーンストア形態へと進展するものであった。この変化に注目していたのは、従来から指摘されていた百貨店や製造業者だけでなく、缶詰などの加工食品を扱う卸売商も注目していたことが分かった。

特に大阪の加工食品卸売商であった祭原商店は、その流通構造の変化の背景には大量生産大量販売体制があり、それは科学的経営法の存在があると捉えていた。祭原商店は、科学的経営法の導入により、前時代的な企業組織から近代的組織への移行を目指していたことが明らかとなった。以上のことを、学会報告しており、これを現在、論文にまとめているところである。

第二の課題は、卸売商の商品流通上の川上及び川下への関与についての検討することであった。川下に関しては、昨年度の調査により小売商支援策を実施していたことは判明しており、本年度はその具体的事例を分析した。缶詰製品及び洋酒といった新興商品に対する販売促進の事例について検討した。現代でいうところのリテール・サポートである。

新興商品市場、特に洋酒及び缶詰、清涼飲料を対象として、昭和戦前期の製造量及び製造額を分析したところ、醤油などの伝統産業と比較して小さい市場であることを確認した。また、加工食品の販売組織は脆弱であり、専門店は都市でも少なかった。そのため、販売促進政策が必要とされた。そして、商品流通の下流に位置する小売商に対して卸売商が刊行する商況等を掲載している『商報』、『時報』等の広報誌を介した小売商支援策を行っていたことがわかった。それは、『商店界』などの商店向け雑誌でも同様のことが実施されていたが、記事の内容及び読者の対象が新興商品を取り扱う商店に特化しているという点で特筆すべき点であった。さらに、うち 1 社では、経営指導や陳列指導について懇切に指南する記事を連載する内容であった。

この政策を支えていたのが販売組織であり、商業知識の素養のある高等商業学校卒業者の採用や商店独自の教育制度の整備、そして講習会や工場見学などで取引先の要望にこたえられる人材の育成を行っていたことが明らかとなった。この論点に関しては、現在論文を投稿し、査読中の段階にある。

以上のように、従来は製造業者及び百貨店からの分析視角により論じられる傾向にあった商品流通について、新たに卸売商の観点から再検討した結果、卸売商独自の企業行動があり、それは商品流通を阻害するという考え方に一石を投じられたと言える。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

中村慎一郎「1920-1930年代における食品卸売商の販売政策—祭原商店を事例として—」『市場史研究』(2011年4月現在審査中)

③ シンポジウム・公開講演会

「昭和恐慌期における大阪の卸売商—転換期の企業者活動—」第101回地理学サロン, 2010年5月15日, 於駒澤大学

④ 学会発表

「1920-1930年代における食品卸売商—祭原商店の組織改革と小売商支援策—」2010年度第79回社会経済史学会全国大会, 2010年6月19日, 於関西学院大学

「1920-1930年代における食品卸売商の小売商支援策」経営史学会関東部会, 2010年9月18日, 於立教大学

④ 研究会報告

「1920-30年代における食品卸売商の展開—祭原商店の組織改革—」第8回市場の地域性研究会, 2010年6月9日, 於立教大学